

サッカーの活動における 暴力根絶に向けて

前号(本誌vol.63の13ページ参照)で概要をお伝えしました「JFA リスペクト フェアプレーデイズ 2014 差別、暴力のない世界を!」についてご報告します。

この取り組みは、2014年9月5日~14日の期間に行われた各種サッカー活動において、サッカーやスポーツの現場で顕在化するさまざまな差別や暴力に反対、撲滅する意思を強く示し、これらの問題発生を未然に防止するよう、啓発を行うことを趣旨として実施しました。

多くのサッカー関係者のご協力により、各世代でのサッカー活動において、伝えたいメッセージを発信することができました。また、身近な問題として一緒に考える機会を設けたり、サッカーファミリーの皆さまとともに、この取り組みに参加する機会を創出することができました。皆さまのご理解ご協力に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

以下に、実施したそれぞれの活動内容をご紹介します。

1 両チームキャプテンによる 差別、暴力根絶宣言

試合前に、両チームのキャプテンが差別、暴力根絶に向けた宣言を読み上げ、選手からのメッセージをスタジアムに登場したファン・サポーターや関係者に届けることができました。また、日本代表戦(SAMURAI BLUE、なでしこジャパン)の選手の宣言はテレビで生放送され、視聴した多くの方にもわれわれのメッセージを届けることができました。日本代表戦でのメッセージカードは、テレビ視聴者へのプレゼントとして普及活動に活用しました。

9月5日 キリンチャレンジカップ2014 両チームキャプテンメッセージ(原文まま)

私達はサッカーの力を使って、スポーツから、そしてこの社会から、差別を撲滅することができると信じ、この目標に向かって突き進むことを誓います。皆さんも、私達とともに差別と闘ってくださるようお願いいたします。

SAMURAI BLUEキャプテン 本田圭佑

暴力・暴言を、しない、させない、そして許さないことを誓います。私達一人一人のリスペクトの力、大切に思う心で、差別・暴力のない世界を、つくり、守っていきましょう。

ウルグアイ代表キャプテン ディエゴ・ゴディン



2 キャプテンによる差別、暴力根絶宣言



3 日本代表戦メッセージカード



4 各種試合におけるバナー掲示、プロモーションビデオ上映

スタジアムでの両チームキャプテンからのメッセージとともに、メッセージバナーの掲示を行いました。試合前の両チームの選手全員と審判団での合同フォトセッション時、試合後のスタジアム巡回時にメッセージバナーを選手たちが掲げました。スタジアムの大型スクリーンではプロモーションビデオを上映し、多くの選手からのメッ

セージを何度も届けることができました。今シーズンのJリーグの全試合会場で上映されています。



5 メッセージバナー掲示



6 プロモーションビデオ上映



7 日本代表戦で審判団および両チームの選手がリスペクトスリーブパッチを着用

これまで日本国内の審判員はリスペクトスリーブパッチを着用していましたが、今回新たな取り組みとして、FIFAフェアプレーデイズ期間内(9月1日~9日)に開催された日本代表戦で、審判団および日本代表チームの全選手、対戦チームの全選手が着用してプレーしました。審判員だけでなく、選手全員が着用することでピッチに立つ全ての人がリスペクトの精神を共有し、またそれを見た観客、テレビ視聴者にリスペクトの取り組みをサッカー界を挙げて取り組んでいることを広報することができました。

8 リスペクトスリーブパッチ着用



4 一緒に考えよう！シンポジウムの開催

JFAとしての宣言のほか、サッカー関係者、法務省や他競技からのゲストも招き、さまざまな観点から差別や暴力の問題について議論し、「差別、暴力のない世界をつくる」ためにサッカー界として何ができるかを考えました。当日は、JFA登録指導者や都道府県サッカー協会関係者、日本スポーツ振興センター、日本オリンピック委員会、日本体育協会などのスポーツ団体関係者、メディアなど総勢162名の参加があり、多くの関係者と共に考えることができました。

“サッカーは差別や暴力と闘う”

“サッカーは差別や暴力のない世界をつくってみせる”

大仁邦彌JFA会長 宣言

【参加者感想】

- ・ 差別、暴力のない世界の実現に向け、サッカー界から声を発する意義は大きい。人種、宗教、国境を越えた共通のツールであるサッカーを通じ、世界に発信してもらいたい。また、サッカーファミリーの一員としてその一助を担っていきたく感じる。
- ・ 15年前、サッカー界では「フェアプレー」を掲げていたが、最近では、差別や暴力、人種差別の撤廃・廃止を掲げている。サッカーはプレーだけではなく、社会においても責任を担い、率先して手本とならなければならないと再認識し、考えるきっかけになった。
- ・ 普段、何気なく(悪気なく)発している言葉にも、他者の人権を侵害してしまっていることもある。常に「人権とは？」を意識していきたい。

■シンポジウム(9月6日)



©Jリーグフォト

5 参加しよう！フォトキャンペーン企画

JFAだけでなく、サッカーファミリー全員で主体的にアクションを起こし、本キャンペーンに参加することを目的に、キャンペーンロゴを持って、選手や指導者、審判員、サポーター、家族、その他のチームの活動を支援いただいている方で写真を撮ってご応募いただきました。ご応募いただいたチームの中から抽選で、「ハビエル・ア

ギーレSAMURAI BLUE監督サイン入りグリーンカード」をプレゼントしました。

■フォトキャンペーン



6 都道府県サッカー協会の取り組み

各種試合会場でのバナー掲示や指導者向けの研修会などの活動を積極的に実施していただきました。

9月6日、県民体育大会サッカー競技の開催に合わせて、大分県サッカー協会1種(社会人)委員会が人権教育についての特別講義を行いました。この講義は各郡市町村の選手や指導者を対象にしたもので、別府市役所人権同和教育啓発課より講師2人を招き、差別や人権についてディスカッションしました。普段は何気なく発している言動でも、受け取り方によっては「差別的な言動」ともとられる場面などを参加者で共有しました。

【参加者感想】

・ 試合終了後の講義だったため疲れていましたが、「差別」についての講義はとても良かったです。日頃、何気なく発している言葉が時と場所によっては差別的な発言ととられることもあると考えました。また、仲の良い人同士での言動においても、関係のない第三者からすれば差別的な言動ともとられかねないことも感じました。このような講義は学生の頃に受けており、社会人になってからは不必要ではないかと思っておりましたが、全く逆で、社会人だからこそこのような講義を受けて日頃の社会生活に生かすべきだと思いました。

- ・ 選手でもありますが、普段は中学生の指導をしています。このような企画に参加するのは初めてで、正直言って面倒だという気持ちもありました。しかし、講師の方々の話を聞いているうちに大変考えさせられることが多く、自分が恥ずかしくなりました。普段から子どもたちに対して自分がしている言動は良いのか、もしかしたら不適切な言葉を言っているのではないかなど、より深く考えて、今後指導者としての自分を確立していけるように努力したいと思えます。

7 啓発ツール制作

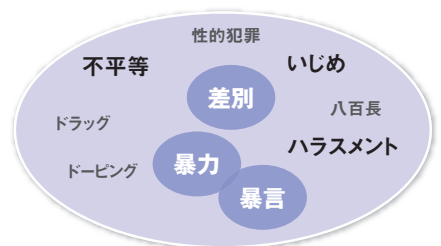
伝えたいメッセージを伝える、また一緒に考えてもらうためのツールとして、これまでさまざまなツールを制作していますが、今回新たに“選手のためのハンドブック”を制作しました。今後選手たちと一緒に考える機会を活用していきます。



8 最後に

上記のように、「JFA リスペクト フェアプレーデイズ 2014 差別、暴力のない世界を！」について、さまざまな取り組みを実施しました。概念図(下図参照)の中の予防・啓発・プロモーションについて、今回の活動で広く実施することができました。当然、今回の活動だけではなく、継続してさまざまな啓発・普及活動を行います。一方で、環境整備に関する取り組みについては今後実施する必要があり、特に各都道府県サッカー協会、各種リーグ・大会等で未然防止の取り組みや啓発活動を行う「ウェルフェアオフィサー」の設置に向けて早急に着手します。本活動は継続することが大切であり、皆さまとともに取り組んでいきたいと考えています。引き続き、皆さまのご理解ご協力をお願いします。

国内外のサッカー界において顕在化する問題に対して



環境整備	予防・啓発・プロモーション
・ 対応、教育、啓発担当者(ウェルフェアオフィサーの設置)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 規定新設、見直し ・ マニュアル整備(リスクマネジメント) ・ 窓口体制整備(whistle blowing機能) ・ 実地トレーニング実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロモーションツール作成・掲示 ・ Anti-差別/暴力根絶Day設置 ・ 他団体、自治体等との連携

